

新型コロナ禍における生活の変化が特養入居透析患者に与える影響

社会福祉法人照善会 こくら庵
医療法人衆和会 長崎腎病院

○川本一人 山元紀子 桑内清美 小松利恵子 船越哲

【背景】

当施設は透析病院附設の特別養護老人ホームであり、入居者は全員エレベータにて透析通院している。新型コロナウイルス感染予防対策のため、2020年4月より外出禁止、家族面会中止となり、透析患者である入居者の生活環境が変化し、高齢透析患者に与える影響が懸念された。

【目的】

新型コロナウイルス感染予防対策が、高齢透析患者に与える影響を調査する。

【方法】

2020年3月から2020年12月で、介護職・透析室スタッフに対して、患者の変化を感じたかの聞き取り調査を行った。項目は、(1) 睡眠障害、(2) 食欲低下、(3) 認知機能低下、(4) 不隠の回数、(5) 気分の変調とした。

【結果】

介護職からの聞き取り調査の結果、悪化があったのは、(1) 6.9%、(3) 13.8%、(4) 3.4%であった。透析室スタッフからの聞き取りでは、全ての項目で変化はなかった。

【考察】

特養では外出禁止・面会中止となり、外部からの刺激が少なくなったため、オンライン面会や施設内での行事の工夫を行った。認知機能において低下が推測されたものの、通院の習慣があった事が、患者への影響を軽減したと考える。